



# 自立活動だより

NO. 7

文責

自立活動支援センター

令和3年 7月19日発行

1学期も早いもので残すところあと1週間足らずとなりました。梅雨明けが待ち遠しい今日この頃ですが、ムシムシと暑い日が続いています。

「聴覚障害」という雑誌が季刊誌で発行されています。この雑誌は、聴覚障がい教育に携わる者向けの雑誌です。この雑誌の特集で「この子とともに」という記事が7回連載されました。この記事は、聴覚障がいのお子さんを育てた保護者の方が、自らの経験を振り返り、今、子育てで真っ最中の保護者の方にも大変参考になるアドバイスが多く書かれています。聴覚障がい児を育てることは、簡単なことではありません。聴覚障がい児の親として、子どもと向き合い、悩み、苦しみそして今、立派に成長した我が子を思いながら親としてとても誇らしい思い出となっているのだということが伝わるものばかりです。

中校舎の階段の下にある「自立活動情報コーナー」に雑誌を並べました。興味のある方は、どうぞお手にとってお読みください。



## ていねいに、ていねいにとは ～5W1Hを意識して話しせるように～

来週から子どもたちにとって待ちに待った夏休みが始まります。お子さんと共に過ごす時間が多くなる夏休みですが、是非たくさん話しをする時間をとってください。言葉を育てるための活動の原点が話しをすることです。

子どもたちが、自らの経験を分かりやすく相手に伝えられるようになるためには、いくつかの段階があります。第1段階は、大人と一緒に楽しい経験をしたことを、話し合う段階です。大人と一緒に経験したことを大人の助けを全面的に借りながら話す段階です。第2段階は、自らの経験を簡単に話しをする段階です。この段階の子どもの話しだけでは、どんなことを経験したのか詳しくは分かりません。第3段階は、自らの経験を分かりやすく相手に伝えられる段階です。目指すは、この第3段階。この段階の言葉の力を身につけられるように、第1段階、第2段階で丁寧に子どもたちとかかわる必要があります。

第1段階や第2段階の子どもたちに分かりやすく話しをする力を身につけさせるために役立つのが5W1H(「いつ-When(時)」「どこ-Where(場所)」「だれ-Who(主体)」「なに-What(目的となる物)」「なぜ-Why(理由)」「どのように-How(手段)」)です。これらの項目を全て網羅して話しをすると、経験したことが分かりやすく相手に伝わります。

そこで、子どもたちの話しを聞きながら、この5W1Hで足りないところを質問して埋めていきます。そして、最後に、5W1Hを意識させながらもう一度話しをさせます。このような経験を積み重ねることで子どもたちも5W1Hを意識して、分かりやすく話せるようになっていきます。特に、言葉の力が身に付いてきた子どもには、「なぜ-Why(理由)」「どのように-How(手段)」について、より詳しく話しをさせることにより、分かりやすい話しになるばかりでなく、論理的思考が育っていきます。



## パラリンピックに聴覚障がい者の種目なし

東京オリンピックの後に行われるパラリンピック。このパラリンピックには、聴覚障がい者の種目が無いことをご存じでしたか。聴覚障がい者は、デフリンピックが行われており、来年の5月にブラジルで行われる予定です。



DEAFLYMPICS

